

令和6年度 学校評価報告

草加市立新田中学校
(令和7年2月17日作成)

1 学校教育目標 豊かな心と 学ぶ意欲をもち 広い世界で たくましく生きる生徒 ・基礎・基本の確実な定着 ・積極的な生徒指導の推進 ・「特別の教科 道徳」の充実 ・服務規律の確保 ・教員の授業力の向上 ・居場所がある環境づくり ・健康教育・安全教育の推進 ・教職員の負担軽減及び健康管理	
2 重点目標・努力目標 子どもが誇りを持てる学校に ～「新田中プライド」の育成を～ ・教師ひとりひとりの授業力向上 ・集団活動を通じた豊かな人間性の育成 ・「新田SPIRIT」の推進 ・共感的な人間関係の育成 ・教育環境の整備	3 前年度の成果と課題 <成果> ○「時間を守る」「学習のルールの確立」において高い評価を得ることができた。教育活動の充実と教職員の負担軽減を両立させるべく、学校行事の精選や運営方法の見直しを行うことができた。 <課題> ●学校公開や授業参観の機会を増やし、保護者や地域へ本校教育活動への理解を促進する取組を行う。小中9年間を見通した「新田中学校区15歳の姿」を小中間で共有し、教育実践に反映させる。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○会議資料の事前回覧を推進し、意見の集約を予め情報機器を活用することで、会議時間の短縮につながり、多くの意見を反映することができた。 ●来年度の教育課程において、学校行事の企画運営と授業時数の確保との両立に努める。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○計画的に研修を実施し、教職員の資質・能力の向上に努めることができた。 ●教職員の負担軽減につなげるため、研修内容や研修日の設定の見直しを図る。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○避難訓練だけでなく、小中合同での引き渡し訓練の実施や避難所開設訓練の実施など、各学期に多様な訓練を実施することができた。 ●不審者対応訓練へ向け、職員の共通理解・共通行動を図るための研修を設定する。また、抜き打ちでの避難訓練の実施を検討する。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○施設の不備について、迅速に対応・修繕を行うことができた。 ●来年度の校務用PC及び校務支援システムの変更に伴い、導入前後で教職員への研修を計画し、新システムへのスムーズな移行を目指す。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○すぐるを活用した学校だよりや学年だよりの配信や学校行事の様子等の配信をし、保護者・地域への学校情報の発信を行うことができた。 ●学校公開日を適切に設定し、多くの保護者に来校していただける環境を整備する。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○教職員による小中間の授業参観を実施し、それを踏まえた合同研修を行うことができた。 ●小中合同研修への負担感を払拭するために、研修内容の精選や運営方法の見直しを検討する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<p>○教育目標・教育活動について職員が共通理解のもと日々の活動を推進することができた。</p> <p>●学校行事との兼ね合いで、授業時数の配当にやや偏りが生じてしまう部分があった。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<p>○教員一人ひとりの教材理解と教科指導により、多くの生徒が主体的に授業に臨むことができた。</p> <p>●朝読書・家庭学習の取組において、達成感をもつ生徒・保護者が前年度と比較して減少している。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<p>○前年度同様、道徳の授業の充実を図ることができた。また、ローテーション道徳を実施し、価値項目を網羅して授業実践を行うことができた。</p> <p>●教員間で授業を公開し合い、道徳の授業力向上に努める。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	<p>○生徒会活動や学校行事において、生徒と教員が協働して企画・運営していく場面が増えた。</p> <p>●学級会を実践するなど、各学級での特別活動を計画的に実践する。</p>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<p>○学校行事との兼ね合いの中、各学年で計画的に学習を進めることができた。</p> <p>●PDCAサイクルに則り、中学校3年間を見通した教科横断的な学習活動の計画となるよう改善・検討する。</p>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○教員間の連携を密にすることで、問題行動へ適切な対処・指導をすることができた。</p> <p>●今後も報連相を徹底し、教職員間の共通理解・共通行動を図り、いじめや問題行動を未然防止に努める。</p>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	A	<p>○各学年において、発達段階に応じたキャリア教育・進路指導を実践することができた。</p> <p>●社会体験事業の来年度の実施を目指し、実施時期や具体的な計画を検討・作成をする。</p>
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<p>○生徒一人ひとりの個性の把握に努め、相談員やSC、SSWと連携し、個に応じて柔軟な支援を行うことができた。</p> <p>●通常級に在籍する、特別な支援を要する生徒への指導を関係機関と連携を図る。</p>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<p>○閲覧室の活用について、昼休みに利用する生徒が増えた。</p> <p>●図書館利用について、漫画の取扱への意見があった。来年度に向け、整備を進める。</p>
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<p>○情報機器活用の研修を行い、授業でタブレット端末を活用する教員が増えた。</p> <p>●情報機器の使い方や管理方法について、ルールを細かく検討する。</p>
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<p>○日頃の教育活動の中で幅広く人権課題についての知識を身につけたり、解決に向けて考えたりする姿勢ができてきている生徒が多い。</p> <p>●教科を横断した学習の一環として、特別活動等で体験的な授業を設定する。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色 ある 学校 づくり	新田中学校区の小中連携	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区の家庭学習取組 ・いじめ撲滅運動 ・相互授業研究会の機会 ・乗り入れ授業の充実 ・作品交流の実施 	B	<p>○小中相互の授業参観を実施し、それを基にした合同研修を実施することができた。</p> <p>●実施に際して教員の負担感が増したという意見があった。よりよい方法を検討する。</p>
	教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員やSC、SSWとの連携 ・生徒一人ひとりに寄り添った個に応じた指導 	A	<p>○教育相談部会にて、不登校や集団不適應の可能性のある生徒への対応を検討するためのケース会議を行った。管理職、学年担当、相談員やSC、SSWが連携し、職員一丸となって適切な指導と対応を行うことができた。</p> <p>●不登校や集団不適應の可能性のある生徒への合理的な配慮に役立てるため、QUの結果を活用する。</p>

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

・職員による学校評価の評価項目を総合してみると「A：十分達成している」「B：おおむね達成している」のA+B評価の合計が90%以上に達している項目は、全40項目のうち7割が達成することができた。「教育課程については適切に編成されている」という項目をはじめ、10項目でA+B評価は100%となっている。また、保護者による学校評価においては、全15項目のうち、10項目が前年度のA+B評価を上回ることができた。特に「学校は、学校の様子を保護者や地域に伝えていますか」という項目においては「すぐる」の配信やHPの更新の頻度を高めたことで、A評価が前年度よりも14.9%も向上し、高い評価を得ることができた。

・職員による学校評価において、「校務分掌」「学校行事」「部活動」を中心に、7項目で前年度のA+B評価が10%以上下回った。このことから、職員の業務等への負担感が伺える。行事の精選や見直しを行い、教員の働き方改革を進めていくことで、教員の負担軽減と教育活動の両立を図る。また、保護者による学校評価においては、「家庭学習」の項目で前年度と比較し、A+B評価が10%以上減少した。このことから、保護者からの学習や学力向上への学校への期待が伺える。引き続き、教員一人一人の指導力の向上に努め、分かりやすい授業実践を行うだけでなく、生徒一人一人への個別最適な学びを実現させる。

6 次年度の改善策

・学校行事や授業などの教育活動と教員の働き方改革を両立させる教育課程の実現を目指し、行事の精選や見直しだけでなく、より公平で実効的な校務分掌の在り方を検討することで、教員の負担感軽減につなげる。

・確かな学力の定着を実現させるため、教員一人一人の指導力の向上に努め、分かりやすい授業実践を行うだけでなく、生徒への個別最適な学びや協働的な学びを実現させる。

・「新田中学校区15歳の姿」を校区の小中で共有することで、小中9年間を見通した教育を実践し、小中を連携した研修・教育活動を推進させる。

・「地域との連携」、「開かれた学校づくり」を推進していくため、今年度に引き続き、学校公開や授業参観、保護者会を設け、保護者が来校できる機会を増やす。